

福岡市保健福祉審議会平成 26 年度第 2 回合同分科会

(第 5 回高齢者保健福祉専門分科会及び第 2 回地域保健福祉専門分科会)

議事録

1 日時

平成 27 年 2 月 5 日 (木) 午後 3 時 0 0 分～午後 5 時 00 分

2 場所

電気ビル 本館 カンファレンス 8 号

3 出席者

別紙のとおり

4 議事

(1)開会

(2)議事

- ・ 次期福岡市保健福祉総合計画（計画案）について

(3)閉会

5 議事録（要点筆記）

(1)開会

事務局：【会議成立の報告】

事務局：【会議資料の確認】

(2)議事

議長：それでは、会議を開会する。議事事項の次期福岡市保健福祉総合計画（計画案）について、事務局より説明されたい。

事務局：【資料 1, 2 により説明】

議長：それでは、まず、計画案の 2 ページから 4 1 ページの中でご意見を伺いたい。

議長：1 3 ページの要介護認定者数の状況を示すグラフは、認知症対策の重要性についての委員意見を反映したものとなっているが、意図を示されたい。

事務局：グラフは要介護認定者数のデータを示したものであり、1 2 ページの認知症高齢者の将来推計と

関連付けて状況を示したものである。認知症の施策については、各論においてご議論いただきたいと考えている。

議 長：認知症については、各論において議論したいという旨を了承した。追加のグラフについて、要介護3～5の認定者数を男女別で見ると、明らかに女性のほうが多い。要介護3～5というのは、特別養護老人ホームに入られるような方々である。このデータは、そのような施設には女性が圧倒的に多いという実態を反映しており、重要なものである。

委 員：34ページの「共助」については、自治会等で取り組んでいただいているところである。さらに、その「共助」の中に地域をもっと狭めた「ご近所」の視点を入れてほしい。

事務局：ご指摘の記載は、現行計画の考え方を示しているところである。次期計画においては、47・55ページ等に記載している。今後の方向性の中で、「ご近所」については、検討していきたい。

委 員：現場の意見としては「ご近所だから知られたくない」という方もおり、共助に対しては、「ご近所」という表現より、現在の表現がよいのではないかと思う。

事務局：「ご近所」だからこそ異変に気付ける一方、「知られたくない」といった、どちらのご意見も、根底には「身近なところでプライバシーは確保しながらも、支え合う必要がある」という点においては、同趣旨と受け止めており、いただいた意見を参考に文面を検討させていただきたい。

委 員：今後、健康寿命を延ばすことが一番のポイントになってくる。素案にあった大都市の比較表はそのまま掲載したほうがよいと思う。また、健康寿命だけではなく、平均寿命との差も記載するとわかりやすい。

事務局：大都市比較表を追加する方向で検討する。

議 長：それでは、先に進み、44ページから54ページの部分で、ご意見はあるか。

委 員：48ページ、「優先順位の最適化」を「選択と集中」という言葉に変更してあるが、これもわかりにくい表現である。また、全体的に一文が長過ぎる。市民の方々に「わかりやすく」という視点で文章を書いていただきたい。

事務局：市民の方々にわかりやすくというのは常々ご指導いただいております。市民の方々に伝わるよう文章を作成しているつもりである。「選択と集中」に関しては、「優先順位の最適化」よりも適していると考えたところである。

委 員：「選択と集中」という難しい言葉を使わず、「優先順位を見て必要度の高いものから事業をします」という文章で十分だと思う。また、文章全体を見ても、一文が長いので、ほんとうに必要な部分がわかりにくい。市民の方々に「わかりやすい」ものに変えていく必要があると思う。

事務局：政策転換の部分は、今回の総合計画の中でも特徴的な柱の一つである。さまざまな背景等を説明しながら、市民の皆様に理解していただきたいと考えているため、文章が長くなり過ぎている。市民の皆様に「わかりやすく」という視点で、文章を検討させていただきたい。

委 員：今後、保健福祉の分野では個人情報の扱い方の問題が大きな課題になってくると思う。地域住民間での適切な情報共有とあるが、個人情報保護の課題が絡んで、福祉情報の共有はなかなか進みにくい。災害時の要援護者の情報共有だけではなく、ほかの問題にも関わってくる。保健福祉計画を推進する上でも、各論での検討を方向づけるような文章を総論に記載してほしい。

事務局：個人情報の管理は非常に大きな課題である。市としても、これから地域での支え合いを進める中で、困っている人がどこにいるかという情報を地域が共有できないのは致命的である。一方で、個人情報保護法もあり、今後、ご意見をいただきながら、総論での記載を検討する。

議 長：基本的に、今後、個人情報をどのように取り扱っていくかという、大枠としての記載が必要と考える。

- 事務局：個人情報保護については、委員長・議長に相談させていただきながら、しかるべきところに記載することを検討する。
- 議長：それでは先に進み、55ページから60ページまでの中で、何かご質問はありますか。
- 議長：59ページ、「支援が必要な高齢者も障がい者も、地域で暮らすことが」という表現に違和感がある。「住みなれた自宅」や「住みなれた環境」ではないのか。「地域で暮らす」という意図を教えてください。
- 事務局：これは、障がい者保健福祉専門分科会でいただいた意見である。障がい者の場合、重度化すると施設などで生活することが多いことを前提に記載した。しかし、ご指摘いただいたとおり、住みなれた地域で暮らすということが、目指しているところであり、文章を検討する。
- 委員：58ページ、社会保障制度の維持の部分において、現在は国の制度等をそのまま記載しているようであり、福岡市としての主体性をもっと欲しい。一方で、48ページには、「国の『社会保障と税の一体改革』と同様に、それ以上の社会システムの改革を、福岡市においても覚悟をもって、実践していかなければならない」と表現している。この表現では、市が独自で非常に大きなことを実施する文章となっているので、改めるべきだと思う。現状の表現では、市が社会の変革までやるように見えている。しかし、市独自の施策もあるので、市がやることと国がやることを明確に分けて、維持すべきものと変えていくものを分けて記載すると良いと思う。
- 事務局：福岡市の保健福祉総合計画においては、基本的には福岡市がすべきこと、福岡市民の方々と一緒にさせていただくことが記載の中心となっている。一方で、58ページの③持続可能な社会保障制度の維持に関しては、市でなかなか独自にできることはないが、要素として挙げている。48ページでは、国のほうで進められている消費税や社会保障制度の改革と同様に、福岡市においても、さまざまな制度や施策等があるので、その部分にもある程度覚悟を持って切り込んでいかなければならないという意味である。記載内容については、整理させていただく。
- 委員：国が「持続可能な」社会保障制度と言っており、国が社会保障を推進するとともに、福岡市としては、それなりに充実したものにすることになれば、明確になると思う。また、48ページの「福岡市においても覚悟を持って」というのは大げさかもしれない。ここは、「福岡市としても側面から、あるいは望ましい社会保障制度に協力する」というような文言を考えていただきたい。
- 事務局：福岡市としての意気込みを示したいため、強い表現になっている。委員の皆様から具体的な表現を頂戴しており、その方向にて改めさせていただく。
- 議長：他に質問はありますか。
- 委員：国際化の進展について、福岡市が取り組む姿勢を明確に打ち出しているが、推進施策の中では国際化に対する具体的な取り組み施策が記載されていない。WHOは、Healthy CityやAge-friendly cityなど自治体レベルで、グローバルネットワークを組もうとしており、自治体政策に関心を持つ段階に入っている。そのようなことを踏まえると、推進施策の中に、国際化の進展にかかることを入れたいと思う。
- 事務局：具体的な施策についての記載については、例示という形で表現するなど、表現を工夫させていただきたい。
- 委員：地域包括ケアシステムの構築は、世界の各自治体が進めなければならない共通の項目だと思うので、それにかかる情報共有や意気込みを述べていいと思う。その他、ICTを活用した健康づくりや国際会議を誘致するなどよいと思う。
- 事務局：47ページでは、福岡市として国際社会のモデルになっていくという意気込みを示している。具体的なことを各論で整理をした上で、もう一度総論に戻り、推進施策の中での記載を検討する。

委員：【了承】

議長：56ページに記載のある「主体」「客体」という言葉を、市民の方々に読んでいただくという視点を踏まえ、表現方法を改めていただきたい。

事務局：表現を工夫させていただきたい。

委員：最近の流行ではあるが、「見える化」や「エビデンス」という言葉についても、表現を工夫していただきたい。

事務局：ご指摘のとおり、表現を工夫させていただきたい。

委員：担い手の役割の部分で、社会福祉法人と企業が一緒に記載されているが、意見のニュアンスが伝わっていないところがある。この意見は、例えば、企業は社員に対して地域活動への参加を奨励することで、地域に貢献するなどの役割を持つべきというニュアンスである。企業の意識を変えてもらう意味で、1項目を設けてほしいという意味合いであった。企業も一市民であるという意識改革が重要であると考えており、項目として独立させて書き込んだほうがよい。

事務局：前回いただいたご意見の解釈を誤ったようである。企業の社員も地域の一員として貢献するというのは具体性を持ったご提案であり、今回記載した内容とはニュアンスが違うことを理解した。今後、ご審議いただく各論の地域福祉分野において、担い手については、少し細やかな記載をしていきたい。総論では、今回指摘していただいたニュアンスを含めるように修正させていただく。

議長：他に質問はありますか。

委員：50ページ、高齢者の位置づけ・考え方のところにおいて、高齢者が支える側になると社会活動に参加できるとあるが、実際の順番は逆だと思う。就労など社会参加ができるような施策を推進することにより、高齢者が支える側になると思う。

事務局：私どもが考えるところも、委員のご指摘のとおりである。現状の図が誤解を与えているようなので、表現を工夫させていただく。

議長：その他、全体的に何かご意見等はないか。

委員：【なし】

議長：今回の会議においても、たくさんのご意見をいただき、記載について修正が入るが、修正内容については、高齢者福祉専門分科会長および地域福祉専門分科会長にご一任いただければと思うが、いかがか。

委員：【異議なし】

議長：それでは、本日の議事を終了し、以降の進行は事務局にお願いする。

(3) 閉会

事務局：委員の皆様方におかれては、次期の保健福祉総合計画について、幅広い見地から熱心なご議論をいただき感謝申し上げます。今回の計画は、超高齢社会を見据えて、あるべき姿、そして、そこに向けての道筋をどのようにするかという新たな手法での計画策定をしており、その中で、本日、総論の部分について、現在までのとりまとめをいただいたと考えている。各専門分科会の委員の皆様におかれては、任期の関係上、今回の分科会が最後となるが、これまでの本市の保健福祉施策に対するご尽力に改めて感謝を申し上げたい。スケジュールとしては、来年度、各論を審議した後、総論を再度ご議論いただくことを考えている。引き続き、様々な面において、市の保健福祉施策についてご協力をお願い申し上げます。

事務局：【閉会】

【別紙】出席者一覧

1 合同分科会委員(※五十音順)

氏名	役職・専門分野等	備考
阿部 正剛	福岡市議会第2委員会委員	
池田 良子	福岡市議会第2委員会委員	
石田 重森	福岡大学名誉学長	
泉 賢祐	公益社団法人福岡県社会福祉士会	
今林 ひであき	福岡市議会第2委員会委員	
岩城 和代	福岡市地域包括支援センター運営協議会会長, 弁護士	
内田 秀俊	公益社団法人認知症の人と家族の会福岡県支部代表	
小川 全夫	九州大学名誉教授	
笠松 範子	第2号被保険者	
加藤 めぐみ	福岡市老人福祉施設協議会代表	
鬼崎 信好	久留米大学文学部社会福祉学科教授	
黒岩 悦子	公益社団法人福岡県看護協会常任理事	
櫻井 千恵美	福岡市七区男女共同参画協議会代表	
佐藤 芙美子	第1号被保険者	
篠原 達也	福岡市議会第2委員会委員	
柴口 里則	公益社団法人福岡県介護支援専門員協会副会長	
白津 陽一	第1号被保険者	
竹之内 徳盛	公益社団法人福岡市老人クラブ連合会会長	
田代 芳樹	西日本新聞社論説委員会委員	
谷口 芳満	社会福祉法人福岡市社会福祉協議会常務理事	
手塚 裕一	公益社団法人福岡県高齢者能力活用センター事務局長	

中野 千恵	公益社団法人福岡県介護福祉士会副会長	
長柄 均	福岡市医師会副会長	議長
西頭 敬一郎	福岡市公民館館長会会長	
浜崎 太郎	福岡市議会第2委員会委員	
山口 繁実	福岡市自治協議会等7区会長会代表	
山根 哲男	福岡市介護保険事業者協議会会長	

2 福岡市保健福祉局(※組織順)

氏 名	所 属
中 島 淳一郎	福岡市保健福祉局長
荒 瀬 泰 子	福岡市保健福祉局理事
福 永 たつ子	福岡市保健福祉局総務部長
鹿 毛 尚 美	福岡市保健福祉局総務部総務課長
高 木 三 郎	福岡市保健福祉局総務部政策推進課長
平 田 英 明	福岡市保健福祉局総務部保護課長
小 川 明 子	福岡市保健福祉局総務部国民健康保険課長
江 口 智 之	福岡市保健福祉局総務部医療年金課長
入 江 晋	福岡市保健福祉局健康医療部長
佐 伯 俊 資	福岡市保健福祉局健康医療部地域医療課長
満 生 美 保	福岡市保健福祉局健康医療部健康増進課長
中 村 卓 也	福岡市保健福祉局高齢社会部長
平 田 俊 浩	福岡市保健福祉局高齢社会部高齢社会政策課長
佐 藤 文 子	福岡市保健福祉局高齢社会部地域包括ケア推進課長
中 園 泰 浩	福岡市保健福祉局高齢社会部介護福祉課長
古 野 和 之	福岡市保健福祉局生活衛生部長
渡 邊 政 彦	福岡市保健福祉局生活衛生部生活衛生課長
久保田 和 広	福岡市市民局コミュニティ推進部コミュニティ推進課長
福 原 知 子	福岡市市民局コミュニティ推進部市民公益活動推進課長
奥 田 正 浩	住宅都市局住宅部住宅計画課長
石 井 美 栄	福岡市東区保健福祉センター所長
永 野 美 紀	福岡市博多区保健福祉センター所長
江 上 裕 子	福岡市中央区保健福祉センター所長